



内科・胃腸科・呼吸器科・放射線科

# ゆとりが丘クリニック 便り

〒020-0638 岩手県滝沢市土沢541番地

TEL 019-699-1122 / FAX 019-699-1121

令和4年12月20日(2022) 第0114号



## 『じいさんの生まれ変わり』

院長メモ

岩手山から吹き降ろす粉雪が、あたり一帯を凍らせている。

まわり一面さえぎる物の無い山麓で、3月の終わりだと言うのに酪農を営む患家にも吹雪かと思える程の粉雪まじりの冷たい風が吹きつけた。一方で空はどこまでもまっ青に晴れあがり、山ひだの隅々まで見渡すことができる。

車から降りて主屋の玄関までは湿った地面に不規則に道に並べられた厚い渡り板をギシギシときませながら進んだ。雪囲いで囲まれた薄暗い玄関に入り、声を掛ける。

「往診です。滝沢のゆとりが丘クリニックで～す」と人気の無い家の奥に向かって何度か声を掛けた。玄関の暗さに目が慣れないままその場に立っていると、いつものばあさんがいつものように曲がった腰に手をあてて出て来た。簡素な挨拶を済ませて、何度か通い慣れた奥の間にあるその家の主である患者の寝室に向う。

「今朝からなんぼ呼んでも返事しなくなった。時々深く息をするみてえに見えるけども。先生、じいさんそろそろだべかね？」洗い古した野良着の裾を直しながらばあさんが尋ねた。「まあ病気が病気だから、そういう時期になったのかもしれない」と私。部屋の隅に置かれた簡易ベッドの上の患者さんを見ると、下顎がさがり深い呼吸を繰り返す度に患者の白髪まじりのヒゲが上下に揺れた。

夫婦は結婚して程なく何も無いこの原野に開墾農家として入植し、二人の子供を育てながら酪農を営んできた。子供達はご多分に洩れず遠くに就職することとなり、二人だけの生活が久しくなっていた。

一通りの診察を終えたが、確かに血圧も100を切り手足も胸も冷たくなり始めている。あと数時間と判断した私は「近いかもしれないから、ばあちゃんも心づもりした方がいいと思う。私はしばらくここに居るから」と言い渡した。カルテを書こうとしたが、居内といっても家の奥までしみこんだ寒さに手がかじかんだ。遅れてバタバタと部屋に駆け込んできた訪問看護師が、手袋をぬぎながら「おばあちゃん牛舎の奥にいましたけど、ここに居なくていいんですか？」と白い息を弾ませながら言った。血圧を測りなおすと上の血圧は60mmHg、下の方は触知しない。そろそろかと思ひ看護師を牛舎に呼びにやらせた。ばあさんが部屋に戻って私の後ろに座ってしばらくすると、玄関を隔てた牛舎の方から鳴き声とも悲鳴ともつかない牛の苦しそうな声が響いた。「ちょっと失礼」とばあさんはそそくさと部屋から出て行き、しばらくすると何やら息を切らしながらまた私の後ろにちょこんと座った。こんなことを何回か繰り返すうちに、いよいよ患者の呼吸が弱くなっていった。やがてその苦しそうな呼吸が止まり、私はその時が来たことを伝えようと後ろを振り向いたが、またばあさんが居ない。看護師に訊ねると、さっきから牛の声が聞こえる度に出入りしていると言う。

(裏面へ)

「すぐに呼びなさい、もう臨終なんだから！」と少々声がイラついたのが自分でも分かった。やがて肩に積もった雪を手で払いながら、ばあさんは申し訳なさそうな顔をして今度は夫の布団のすぐそばに座った。しばらくの間誰も口を開くことは無く、窓の外に垂れ下がったつららを通して、曲がりくねった光がストーブの上のやかんをにぶく照らしていた。突然“モォー！！”というひとときわ甲高い牛の鳴き声が聞こえた。ばあさんは「それー！」といったような(?) 不思議な掛け声とともに高齢とは思えない程の勢いで部屋を飛び出して行った。と同時に患者の呼吸は完全に停止し、頸部、そ径部でも脈を触れることは無かった。しばらく死亡診断書を書きながらふと人の気配を感じて後ろを向くと、息を切らしたばあさんが頭部から湯気を出し、手ぬぐいで自分の顔を拭いている。

「じいさん、逝ったべか?」「うん、たった今亡くなった」

「んだかあ、わかった。先生ありがとうな」「ところでベゴのわらし生まれた」

「?????」

「逆子で大変だったけど、いつもじいさんと二人でやるんだども、今日はオラ一人でやった」「メスだったから高く売れるから良かった。じいさんの生まれ変わりだべかな?」「ばあちゃん、なんぼなんでも生まれ変わりってのは・・・」と看護師がクスッと笑った。その仕草が少々無作法と思えばあさんの顔を見やった。ばあさんは汗と溶けた雪、そして涙かなんかでぐちゃぐちゃになった顔を半分濡れた手ぬぐいでさかんに拭いていたが、しばらくすると言葉にならないおえつが小さく聞こえた。私は何と言葉を返していいかわからず、そそくさと後の処置を看護師に頼んで外に出た。

帰り際さっき来たぬかるんだ道の渡り板を、やっぱりギシギシと音を立てて踏みしめながら隣接する牛舎を覗き込んだ。出産時に子牛の足をひっぱったのだろう、滑車にかかったロープと無造作に積まれた藁の間から、生まれたばかりの子牛から立ち上る湯気と白い息が見えた。すっかり暗くなった野原の真ん中、エンジンを掛けながら乗り込んだ車の車窓に張り付いた氷が溶けるのを待っていると、ばあさんがガラスを叩いた。私が車の窓を開けると白いものが入ったビンを出す。「これ今朝とれた牛乳だ。毎晩夕食前にじいさんと飲んでたけど、今夜からはオラ一人だけだ。」冷たい風に吹かれて顔にかかる白髪まじりの髪を手で払いながら、ばあさんは少し笑んだように見えた。軽く礼を言って夜道に車を出しながら、一口飲んでみた。脂肪分が多くそれほど旨いとは思えなかったが、ほのかな温かさが喉元を通り過ぎた。

(医学雑誌 : Medical Doctor 2014 年投稿)



## 休診・診療時間のお知らせ

年末年始休診のお知らせ

12月30日(金)~1月3日(火)

1/4(水)より通常通り診療いたします

診療日・時間	月	火	水	木	金	土	日
午前診療 9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	休
午後診療 15:00~18:00	○	○	休	○	○	休	休

※都合により変更になる事がございます。ご了承願います。

(日曜・祭日は休診日です)

2023年1月

日	月	火	水	木	金	土
①	②	③	4	5	6	7
⑧	⑨	10	11	12	13	14
⑮	16	17	18	19	20	21
⑳	23	24	25	26	27	28
㉑	30	31	○ = 休診日 ★ = 診療時間変更			

このマガジンは当クリニックホームページ(クリニック便り)でもご覧になれます。

ゆとりが丘クリニック 検索